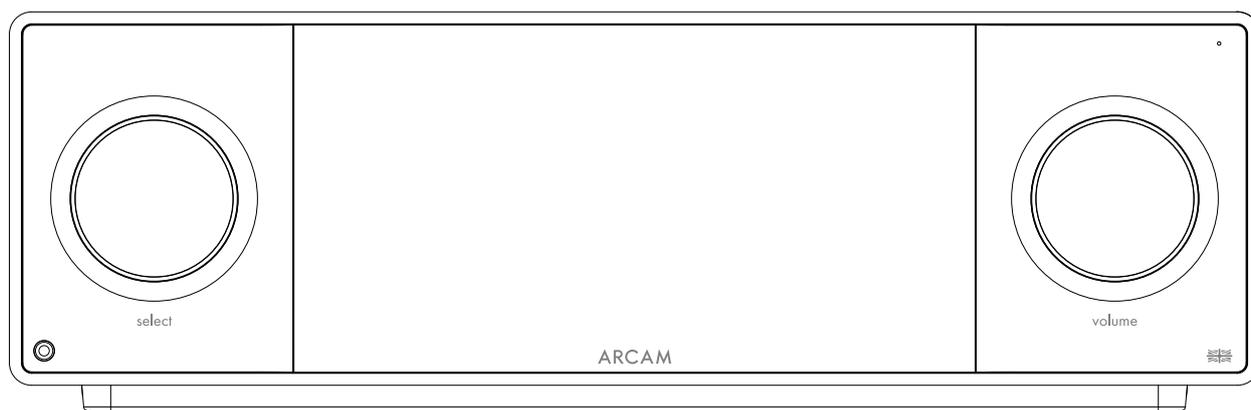


SA45



SA35



オーナーズマニュアル

セットアップアプリをダウンロード:

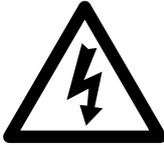


1. 本説明書をお読みください。
2. 本説明書は大切に保管してください。
3. すべての警告表示を遵守してください。
4. 全ての指示に従ってください。
5. 清掃の際は、乾いた布をご使用ください。
6. 換気口をふさがないでください。設置は必ずメーカーの指示に従って行ってください。
7. ラジエーター、電気ヒーター、ストーブなどの熱源の近くには設置しないでください。
8. 極性付きまたは接地タイプのプラグの安全機能を無効にするような使用はしないでください。極性付きプラグは一方の刃が他方より広くっており、接地タイプのプラグには接地用の端子が付いています。これらは安全のために設計されています。プラグがコンセントに合わない場合は、電気工事に相談して適切なコンセントに交換してください。
9. 電源コードを踏んだり、物の下敷きにしたりしないでください。特にプラグ、テーブルタップ、機器の接続部付近では注意してください。
10. メーカーが指定した付属品およびアクセサリのみをご使用ください。
11. 本機は、最高周囲温度35°Cの温暖な気候での使用を想定して設計されています。
12. メーカーが指定した、または本機専用として販売されているカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルと併用してください。カートを使用する場合は、移動中の転倒によるけがにご注意ください。
13. 雷が発生しているときや、長期間使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。
14. 修理や点検は、必ず有資格のサービス担当者に依頼してください。電源コードやプラグの損傷、液体のこぼれ、異物の混入、雨や湿気による濡れ、正常に動作しない、または落下などによる損傷がある場合は、修理が必要です。
15. 本機を完全に電源から切り離すには、電源コードをコンセントから抜いてください。
16. 電源プラグは、いつでも簡単に抜き差しできる状態にしておいてください。
17. 本機には、必ずメーカーが提供する電源ケーブルおよび充電ケーブルをご使用ください。



警告: 火災や感電を防止するため、本機を雨や水で濡らさないでください。

- 本機を水周りで使用しないでください。
- 本機に水滴や飛沫がかからないようにしてください。また、本機の上に、花瓶など液体の入った物を置かないでください。

警告	
感電の恐れがあります。絶対に開けないでください。	
	本製品に表示されているこの記号は、筐体内部に絶縁されていない高電圧部が存在し、感電の危険があることを示しています。
	本製品に表示されているこの記号は、本ガイドに重要な操作手順およびメンテナンス手順が記載されていることを示しています。

安全上の注意事項の完全リストについては、[ARCAM.co.uk](https://www.arcam.co.uk)の製品ページにアクセスし、安全シートをダウンロードしてください。

クラスII機器

本装置はクラスII(二重絶縁)電気機器です。電氣的アースへの安全接続を必要としない方法で設計されています。

表紙 - アプリリンク

- ② 安全に関する重要な注意事項
- ③ 目次
- ④ 同梱品
- ④ パワーマネージメント
- ④ 本体の配置
- ⑤ フロントパネル
- ⑤ リアパネル
- ⑥ スピーカーとの接続
- ⑥ 有線ネットワークへの接続
- ⑦ ワイヤレス接続
 - Wi-FiとBluetooth
- ⑧ リモコン
- ⑨ 電源
- ⑨ ホーム画面
- ⑩ 入力
- ⑪ Audioメニュー
- ⑫ Dirac Live
- ⑫ DACフィルター
- ⑫ 設定メニュー
- ⑬ ストリーミング
- ⑬ サポート対象のフォーマット
- ⑭ トラブルシューティング
- ⑮ 仕様

ARCAMの「A」はアンプ (Amplification) を意味しており、これは当社の事業の中核を成す重要な要素です。

ARCAMは45年以上にわたり、最先端の音質を提供するHi-Fiおよびホームシネマに特化した製品を製造してきました。

SA45/SA35は、1976年に初の製品であるA&R Cambridge A60を発表して以来、45年以上にわたりアンプの設計と製造を続けてきた当社の最新モデルです。

本機は、これからの数十年にわたり、優れた音楽体験をお届けできるよう設計されています。

万が一、不具合が発生した、または技術的サポートが

必要となった場合は、luxurysupport@harman.comまでメールにてお問い合わせください。

または電話 (+44 1707 668012 または +1 888 691 4171.)

故障が発生した場合、またはARCAM製品に関する詳細な情報が必要な場合は、当社の販売店ネットワークが喜んでサポートいたします。

詳しくは、ARCAM公式サイト (arcam.co.uk) をご覧ください。

同梱品

- ストリーミングアンプ本体
- 赤外線リモコン
- リモコン用単4電池2本
- 地域別の電源コード
- Dirac Live 測定用マイク
- マイク用USB-Cケーブル (5m)
- クイックスタートガイド
- 安全シート

パワーマネジメント

本製品には、電力消費をユーザーが選択できる機能があります。この機能を変更することで、スタンバイ時の本製品の電力消費量が切り替わります。

- 初期設定では、本機は操作や再生が行われない状態が20分続くと、自動的にスタンバイモードに移行します。これは、メニューで**ECO Timer**をオフに設定することで無効にできます。
- 初期設定では、本機はスタンバイ状態でもネットワーク接続が有効なまま維持されます。スタンバイ時の消費電力を抑えたい場合は、設定メニューで**Network Standby**をオフにすることで、Wi-Fiを含むすべてのネットワーク接続を無効にすることが可能です。

本体の配置

- 本アンプは、直射日光や熱源や湿気を避けて、丈夫で平坦な水平面に設置してください。
- 本機は、パワーアンプなどの熱を発する機器の上に置かないでください。
- リモコンの動作を妨げないよう、フロントパネルディスプレイの右側にあるリモコン受光器の前に障害物を置かないでください。
- 本機は、通常の動作中にわずかに温くなる程度の温度で動作するように設計されています。



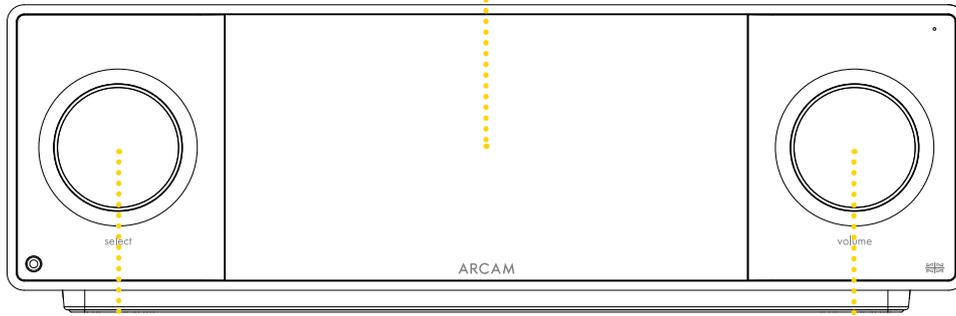
大音量で長時間使用した場合、アンプに触れると熱くなります。

本アンプは、十分な換気が行える場合を除き、本箱やキャビネットなどの密閉空間に設置しないでください。

- 放熱器周辺の空気の流れが妨げられると、本アンプが過熱する恐れがありますので、本機の上に他のコンポーネントや物を置かないでください (アンプの上に置いた機器も高温になる可能性があります)。
- 本機の上にレコードプレーヤーを設置しないでください。レコードプレーヤーは、主電源から発生するノイズに非常に敏感です。電源との距離が近すぎると、再生音にハムノイズが混入する可能性があります。
- 本機の正常な動作は、強い電磁妨害の影響を受けることがあります。そのような場合は、電源ボタンで本機をリセットするか、設置場所を変更してください。

フロント

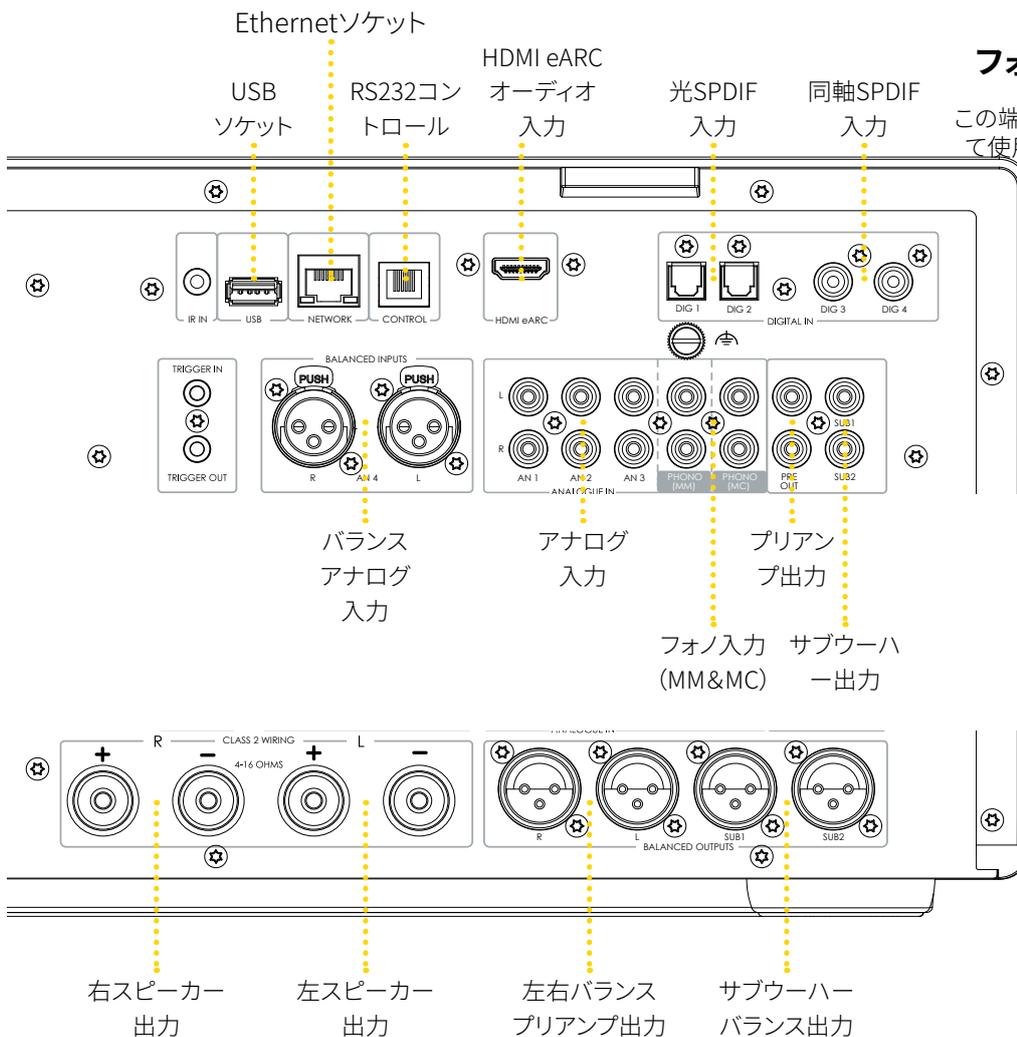
ディスプレイ



回す: 入力カーセル
押す: 入力を選択

回す: 音量調節
押す: ミュート/ミュート解除またはスタンバイ状態の解除
長押し: スタンバイ

リア

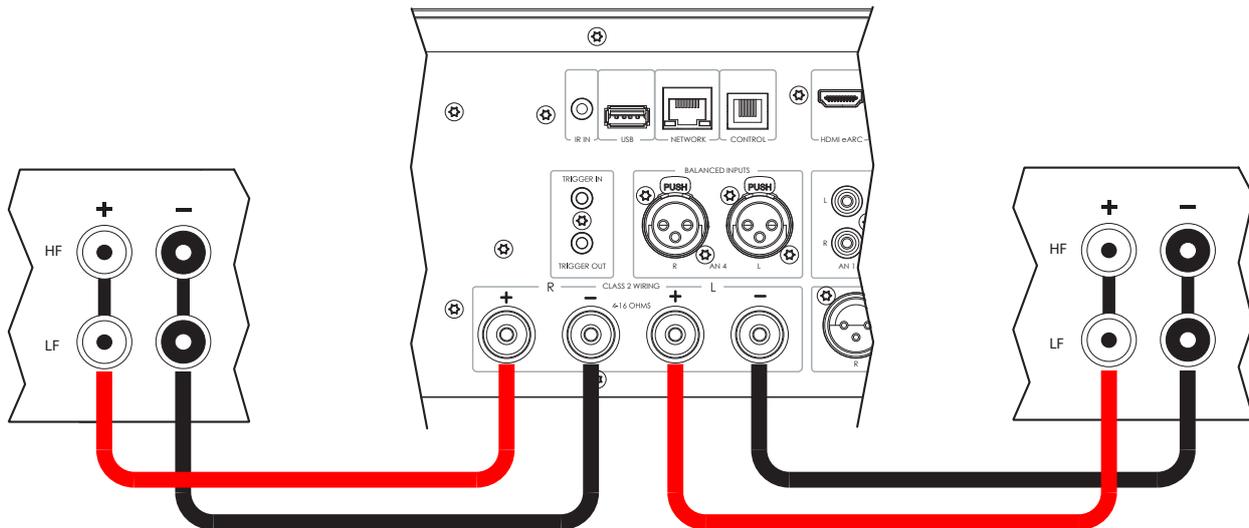


フォノアース Ⓞ

この端子を、安全アースとして使用してはなりません。

スピーカーの接続

- ステップ 1. 本アンプに電源が接続されていないことを確認してください。
 ステップ 2. スピーカーケーブルを使用して、アンプの赤い右スピーカー出力端子 (R+) を、右スピーカーのプラス端子 (+) に接続します。
 ステップ 3. アンプの黒いスピーカー出力端子 (R-) を、右スピーカーのマイナス端子 (-) に接続します。
 ステップ 4. 左スピーカーについても、アンプのL+およびL-端子を使用して、同様の手順で接続してください。

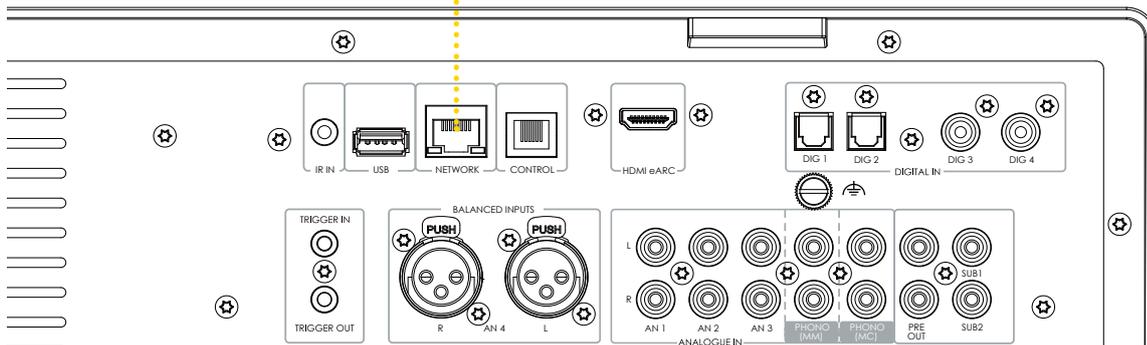


重要なヒント

- すべての接続を慎重にご確認ください。ケーブルやワイヤーの裸線同士が接触していないか、またアンプのシャーシに触れて短絡状態になっていないかをご確認ください。さらに、陽極 (+) と陽極、陰極 (-) と陰極が正しく接続されていることを、アンプおよびスピーカーの両方で必ずご確認ください。
- 接続が完了したら、入力信号がない状態でアンプの電源を入れ、音量を最小に設定してください。その後、ソース信号を選択し、誤接続による大音量や製品の損傷を防ぐため、音量をゆっくりと適切なリスニングレベルまで上げてください。
- システムの接続方法についてご不明な点がございましたら、ARCAM販売店にご遠慮なくお問い合わせください。

有線ネットワーク接続:

Ethernetソケット
 Cat 5eまたはCat 6ケーブルを
 使用して、ホームネットワークに
 接続します。

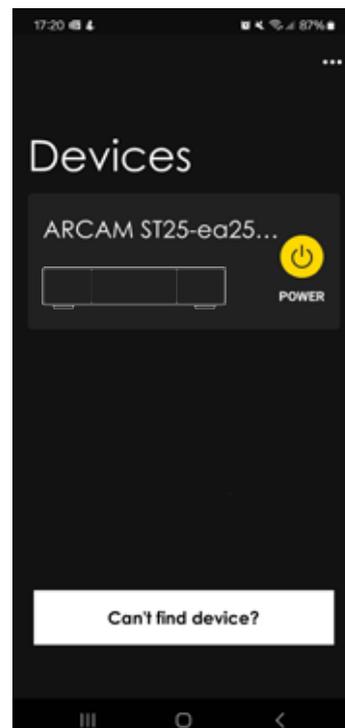


Wi-Fi接続:

- Wi-Fi接続を行うにはスマートフォンまたはタブレットに **ARCAM Radia app** をダウンロードしてください。
- アプリへのリンクは本マニュアルの表紙に記載されています。

セットアップ - ARCAM Radiaアプリ

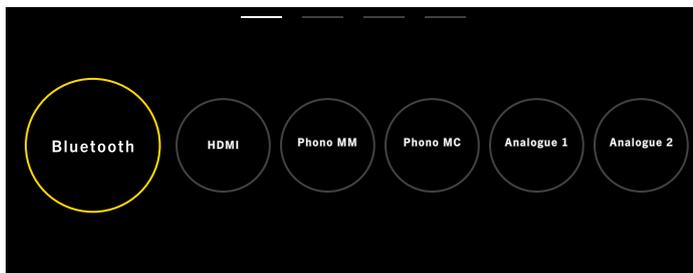
- 本機の電源を入れ、本機の起動が完了したあと、アプリを起動して本機を検索します。
- 本機を選択し、画面の指示に従ってWi-Fiルーターに接続してください。
- 接続が完了すると、「POWER」アイコンが表示されます。
- 本機を選択すると、ポッドキャスト、インターネットラジオ、プリセット、USB接続メディア、ローカルネットワークストレージ (UPnP)、および設定にアクセスできます。



Bluetoothの操作

Bluetooth受信

- Bluetoothソースデバイスをペアリングするには、本機の電源をオンにして、Bluetooth入力を選択してください。
- デバイスのBluetooth設定を開き、**SA45#### / SA35####** をスキャンしてください。各製品には固有のIDがあります。
- 本機を選択してペアリングが完了したら、デバイスから音楽の再生が開始できます。



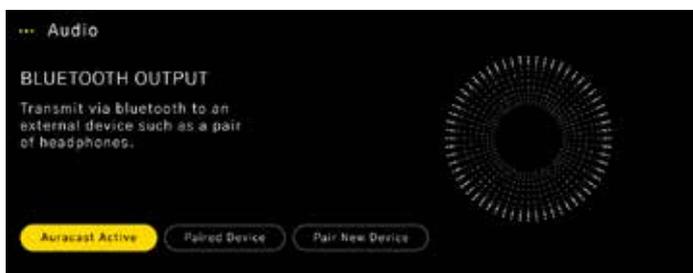
本機は、最大5台のデバイスとのペアリング情報が記憶されます。すでに5台が登録されている場合は、最も古いペアリング情報が新しいデバイスに置き換えられます。

多くのポータブルデバイスにはボリュームスライダーが搭載されているため、誤って過大な音量が出力される可能性があります。そのため本機には、最大音量を制限する機能が搭載されています。初期設定は「40」です。

Bluetooth送信

Bluetoothヘッドフォンをペアリングするには、**Audio** メニューから **Bluetooth Output** を選択してください。

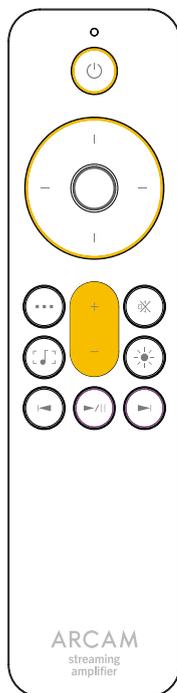
注意: Bluetoothヘッドフォンは、本機のBluetooth送信には接続できません。



Auracastを使用するか、ペアリングされたヘッドフォンを使用するか、新しいセットをペアリングするかを選択します。

- 新しいヘッドフォンをペアリングするには、ヘッドフォンをペアリングモードに設定してください。本機は、ペアリングモード中の最初のヘッドフォンを検出し、自動的に接続します。

リモコン



	スタンバイ オン/オフ
	メニューナビゲーション 中央のボタンを押してOK/選択
	音量調節
	ミュートのオンまたはオフ
	ディスプレイの表示 オフ/暗い/明るい
	トランスポートキー (再生/一時停止、前のトラック/次のトラックにスキップ)
	設定メニュー
	表示モード

注意: 誤った種類の電池を使用すると、危険を伴う可能性があります。新旧の電池や異なる種類の電池を混ぜて使用しないでください。見た目が似ていても、電圧が異なる場合があります。電池は極性 (+/-) を正しく確認して挿入してください。

1か月以上使用しない場合は、機器から電池を取り外してください。
使用済みの電池は、お住まいの国や自治体の規則に従って適切に廃棄してください。

代替コード

本機とそのリモコンは、初期設定のリモコンコードが他の製品 (ARCAM AVRなど) と重複する場合、操作に支障をきたすことがあります。そのため、別のリモコンコードセットに変更することが可能です。この機能を有効にするには、本体とリモコンの両方でシステムコードを変更する必要があります。

本機のシステムコードを変更するには、**Settings Menu**のシステムコードオプションを参照してください。

リモコンのシステムコードを変更するには、次の手順に従ってください。

- **POWER**と**OK**キーを同時に3秒間長押しします。リモコンのLEDが点灯し、設定モードに入ります。
- ナビゲーションコードを使用して、システムコードを選択します。
- **UP** - すべてのキーのシステムコードをコード19に設定します。LEDが2回点滅します。
- **LEFT** - すべてのキーのシステムコードをコード16 (初期設定) に設定します。LEDが1回点滅します。

電源

リアパネルの電源スイッチで、アンプの主電源のオン/オフに切り替えます。すべての接続が完了した後に、アンプの電源を入れてください。

スタンバイ

音量ダイヤルを押しか回すと、本機はスタンバイ状態を解除します。
本機をスタンバイの状態にするには、ボリュームダイヤルを長押ししてください。
リモコン上部のスタンバイボタンでも、スタンバイのオン/オフを切り替えることができます。

ホーム画面

リモコンでホーム画面に移動し、プリセット、入力を選択したり、設定を変更したりします。



プリセットの選択

リモコンを使用する場合、カーソルボタンで上部メニューバーから**Presets**を選択します。OKまたはDOWNを押して、リストにアクセスします。



LEFT/RIGHTのカーソルボタンでPresetを選択します。



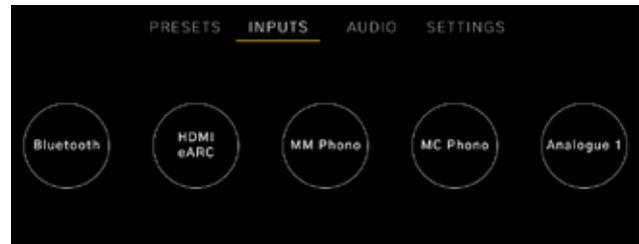
OKを押してPresetを選択します。
または
UPを押してトップメニューに戻ります。



オーディオ入力の選択

本機の左のダイヤルでオーディオ入力を選択します。

リモコンを使用する場合、カーソルボタンで上部メニューバーから**Inputs**を選択します。OKボタンを押して、リストにアクセスします。



LEFT/RIGHTのカーソルボタンで入力を選択します



OKを押して入力を選択します。
または
UPを押してトップメニューに戻ります。



デジタルオーディオ入力

本機は、デジタルオーディオソース用の2つの同軸デジタル入力と2つの光デジタル入力に対応しています。これらの入力では、ステレオPCM オーディオのみをサポートしています。

警告:これらの入力を介して再生されるマルチチャンネルオーディオ、またはエンコードされたオーディオ形式は、大きなノイズを発生させ、アンプやスピーカーを損傷させる恐れがあります。

アナログオーディオ入力

SA45/SA35は3系統のステレオアナログ入力、1系統のバランスアナログ入力 (SA45のみ)、および2系統のフォノ入力に対応しています。

SA45/SA35は、ムービングマグネット (MM) およびムービングコイル (MC) カートリッジを搭載したターンテーブルに対応しています。リアパネルには、それぞれのカートリッジタイプ専用の入力端子が装備されています。

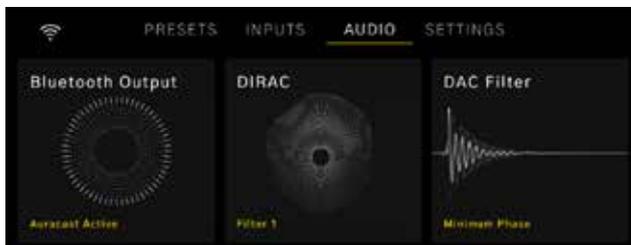
お使いのターンテーブルに搭載されているカートリッジの種類に応じて、適切な入力端子に接続してください。

カートリッジの種類が不明な場合は、ご購入先の販売店またはカートリッジのメーカーにご確認ください。

警告:ターンテーブルは、必ずフォノ入力端子にのみ接続してください。他の機器を誤ってフォノ入力に接続すると、大きなノイズが発生し、アンプやスピーカーを損傷する恐れがあります。

Audioメニュー

Bluetooth Output, Dirac Live, Dacフィルターの設定ができます。



Bluetooth	DIRAC	DACフィルター
ワイヤレスヘッドホンへの送信が設定できます。7ページをご覧ください。	保存したルーム補正フィルターが選択できます。	音を微調整できるDACフィルターが選択できます。



Dirac Liveソフトウェアの手順に従うか、次のリンクから当社のビデオガイドをご覧ください：



Dirac Liveルーム補正の設定と調整は、オーディオ体験を向上させるシンプルかつ効果的なプロセスです。

- Dirac Liveを開始するには、dirac.com/registerでアカウントを作成します。
- PCまたはMac用のDirac Liveソフトウェアスイートをdirac.com/live/downloadsからダウンロードしてください。
- 同梱のUSBケーブルを使用して、付属のUSBマイクをPC/Macに接続します。
- arcam.co.uk/sa45からクイック スタートガイド、マイクキャリブレーションファイル、ターゲットファイルパックをダウンロードしてください。

Dirac Liveを使用してルーム補正フィルターを作成するには、7つのステップに従ってください。

1. Dirac Liveソフトウェアを起動し、アカウントでログインしたうえでSA45/SA35に接続します。接続が完了すると、SA45/SA35は自動的にDirac Live測定モードに切り替わります。
2. 接続されているUSBマイクを選択し、マイクのキャリブレーションファイルを読み込みます。このファイルはマイクの特성에基づいて測定値を補正します。より正確な測定を行うために、マイクは三脚に取り付けることを推奨します。
3. 測定音がバックグラウンドノイズを十分に上回り、かつクリッピング（音の歪み）が発生しないように音量を調整します。通常は、マイクスライダーを100%に設定し、マスターボリュームスライダーで出力レベルを-10dB~-20dBに調整するのが理想的です。
4. ニングエリアを最もよく表す測定配置を選択し、最低でも5回の測定を行ってください。
5. 各測定位置でスイープ測定を実行します。メインポジション（MP）では、マイクを耳の高さに設置してください。マイクとスピーカーの間に障害物がないこと、またバックグラウンドノイズが最小限であることを確認してください。
6. 測定が完了したら、各スピーカーの平均測定結果を確認し、ターゲットカーブを調整して補正内容を設定します。ARCAMが提供するHarmanターゲットカーブの使用を推奨します。Dirac Liveの「ファイル」メニューから、ターゲットカーブファイルを読み込むことができます。
7. 完成したフィルターには任意の名前を付け、SA45/SA35本体にエクスポートします。ソフトウェアを終了する前に、必ずプロジェクトを保存してください。保存されたプロジェクトは後から再ロードすることができ、測定をやり直すことなくターゲットカーブの調整やフィルターの再設計が可能です。

DACフィルター

本機には、デジタル信号をアナログ信号に変換する際に使用される複数のデジタルフィルターから選択できる機能が搭載されています。これらのフィルターは、出力時に発生する不要な歪みを最小限に抑えるために重要ですが、すべてのフィルターが完璧というわけではありません。それぞれのフィルターは、以下のような複数の音響パラメーターの間でバランスを取る必要があります。

1. 周波数応答 - 可聴帯域 (20Hz~20kHz) 全体にわたる音のレベルを示します。理想的には、この範囲内で音量の変化が少ないことが望まれます。
2. フェーズ - 異なる周波数の音が再生される際に生じる時間的なずれを指します。理想的には、すべての周波数で時間遅延が均一な「リニアフェーズ」が望ましいとされています。
3. リンギング - 音の前(プリリンギング)または後(ポストリンギング)に発生する不要な音の尾のような現象です。理想的には、これらのアーティファクトはできるだけ小さく、短時間で収束することが望まれます。

本機では、次のフィルターを選択することができます。

Minimum Phase - 高速なロールオフにより、プリリンギングを排除しつつ、ポストリンギングを拡張することで、20kHzまでの出力レベルを維持します。

Linear Phase Apodizing - 周波数応答とリンギングのバランスを取った設計です。高域の出力レベルはわずかに低下しますが、プレリンギングとポストリンギングは等しく、かつそのレベルも抑えられています。

Linear Phase Slow Roll-off - 高域の出力レベルは測定可能な範囲で低下しますが、プレリンギングとポストリンギングは非常に短く、レベルも低く抑えられています。

Minimum Phase Slow Roll-off - Linear Phase Slow Roll-offと同様に高域の出力レベルは低下しますが、プリリンギングは発生せず、ポストリンギングもごくわずかに抑えられています。

設定メニュー

メニューオプション	説明	既定値
Halo Brightness	フロントパネルのダイヤル照明の明るさを調整します。	Full
Subwoofer Config	サブウーファー出力端子にサブウーファーを接続するかどうかを設定します。	None
Balance	左右スピーカーの音量バランスを調整します。	0
Maximum Volume	最大音量の上限を設定します。	40
Pre Amp Mode	内蔵パワーアンプを無効にし、プリアンプとして使用します。	Off
Eco Timer	有効にすると、20分間操作や再生がない場合に自動でスタンバイ状態になります。	On
Network Standby	スタンバイ中でもネットワーク接続を維持するかどうかを設定します。消費電力が増加します。	On
BT/HDMI Autoswitch	BluetoothまたはHDMI入力アクティブになると、自動的にその入力に切り替えます。	On
TV Volume Control	HDMI eARC/ARC接続されたテレビからの音量操作を有効にします。	On
System Reset	Select/OKを押すと、すべての設定を初期状態にリセットします。	
Bluetooth Reset	Select/OKを押すと、すべてのBluetoothペアリング情報を削除します	
USB Update	Select/OKを押すと、リアパネルのUSB端子に接続されたUSBメモリからソフトウェアアップデートを開始します。	
System Code	同じ空間にある他の機器とリモコンコードが重複する場合、別のコードセットを選択できます。	16
Product Information	ソフトウェアバージョン、IPアドレス、ネットワークIDを表示します。	

ストリーミング

ARCAM SA45/SA35は、以下の主要な音楽ストリーミングサービスと接続して、シームレスに音楽を再生することができます。

- Spotify Connect
- Tidal Connect
- Apple AirPlay
- Google Cast
- Roon (Roonソフトウェアでのセットアップが必要)

ARCAM Radiaアプリを使用することで、セットアップ済みのお気に入りへのアクセスや、以下のようなサービスも利用可能です。

- インターネットラジオ
- Podcasts
- 接続されたUSBメディア
- ローカルネットワークストレージ (UPnP)

USB

ARCAM SA45/SA35 はUSBフラッシュドライブに保存された音楽ファイルの再生にも対応しています。

- リアパネルのUSB端子にUSBストレージデバイスを挿入してください。
- USB延長ケーブルは使用しないでください。
- 接続されたUSBストレージ内の音楽ファイルは、ARCAM Radiaアプリを通じて簡単にブラウズ・再生できません。

サポートされているオーディオ形式

ファイルのタイプ	ビット深度	サンプルレート
AAC	16または24ビット	44.1、48、88.2または96kHz
AIFF	16、24、32ビット	44.1、48、88.2、96、176.4、192、352.8、または384kHz
ALAC	16、24、32ビット	44.1、48、88.2、96、176.4、192、352.8、または384kHz
FLAC	16、24、32ビット	44.1、48、88.2、96、176.4、192、352.8、または384kHz
MP3	16ビット	44.1または48kHz
OGG	16ビット	44.1または48kHz
WAV	16、24、32ビット	44.1、48、88.2、96、176.4、192、352.8または384kHz
WMA	16ビット	44.1または48kHz
DSD	1ビット	2.8224、5.6448、または11.2896 MHz

問題	以下を確認
音が出ない	<p>本機が電源に正しく接続され、電源スイッチが入っていますか？</p> <p>正しい入力を選択されていますか？</p> <p>アンプがミュートされていませんか？</p> <p>本機が保護モード (下に説明があります) になっていませんか？</p>
不意に音が出なくなった	<p>故障が検出されると、本機が保護モードになることがあります。以下のいずれかの障害が発生すると、アンプは自動的にオフになります。本機の使用を継続するには、故障の原因を取り除き、本機の電源をオフにしてからオンに戻します。フロントパネルの白いLEDは、次のように障害の種類を示します。</p> <p>高速点滅： 本機内部の温度が危険なレベルまで達しています。機器本体を冷却させてください。</p> <p>1秒点滅： アンプに障害が発生しました。 スピーカーケーブルをすべて点検して、互いに接触していないか確認してください。この故障は、スピーカーの接続に、端末処理をしていないケーブルを使用した場合によく起こります。</p> <p>2秒点滅： 電源障害が検出されました。</p> <p>症状がすぐに再発する場合は、ARCAM販売店または当社サポートチームにお問い合わせください。</p>
アンプがリモコンに反応しません	<p>ボタンを押すとリモコン上部のライトが点滅しますか？点滅しない場合は、リモコンの電池を交換してください。</p> <p>リモコンとアンプの間に障害物がなく、リモコンがアンプの窓を向いていますか？</p>
フロントパネルディスプレイに何も表示されない	<p>ディスプレイが「Off」で暗くなっていませんか？</p> <p>リモコンの  を押すとディスプレイの明るさが切り変わります。</p> <p>ストリーマーが電源に正しく接続され、電源スイッチが入っていますか？</p> <p>ストリーマーがスタンバイ状態になっていませんか？</p>
スピーカーから音が出ない	<p>出力はミュートになっていませんか？</p> <p>設定メニューで Pre-Amp Mode が有効になっていませんか？スピーカーを本機に直接接続する場合、プリアンプモードをデフォルト設定に設定する必要があります。初期設定は Off です。</p> <p>スピーカーケーブルは両端とも正しく接続されていますか？</p> <p>本オーナーズマニュアルの6ページ「スピーカーの接続」を参照してください。</p>
アプリでストリーマーが見つかりません	<p>ストリーマーが電源に正しく接続され、電源スイッチが入っていますか？</p> <p>ストリーマーは、EthernetまたはWi-Fiによるネットワーク接続が可能ですか？</p> <p>Wi-Fi接続の場合、ARCAM Radia app を使用してセットアップを完了しましたか？</p> <p>スマートフォンやタブレットは、同じローカルネットワークに接続されていますか？</p> <p>Google Castの場合、ARCAM Radia App でGoogle利用規約に同意していることを確認してください。</p>
アナログ入力でハムが出る	<p>すべてのケーブルの接触が良好であることを確認してください。必要に応じて、コネクターからケーブルを一旦抜いて、もう一度完全に差し込みます (これを実行する前に電源を切ってください)。</p> <p>ケーブルを外すとハム音が止まる場合は、別のケーブルに交換してください。</p> <p>特定のソースデバイスが接続されたときにのみハム音が発生する場合は、デバイスのサプライヤーまたはメーカーにお問い合わせください。デバイスに問題がある可能性があります。</p>

サービス	
対応アプリ	ARCAM Radia Spotify Connect Tidal Connect Roon
対応サービス	Apple AirPlay Google Cast
ARCAM Radia 対応サービス	インターネットラジオ Podcasts UPnP USBメディア (USB-A マスストレージ入力を使用)
連続出力 (THD 0.5%、両チャンネル駆動時)	
8Ω, 20Hz - 20kHz	SA45 : 180W, SA35 / 120W
4Ω, 1kHz	SA45 : 300W, SA35 / 300W
THD (80%出力時、8Ω@1kHz)	0.002%
アナログ入力	
入力端子	SA45 : RCA × 3ペア, XLR × 1ペア SA35 : RCA × 3ペア
フォノ入力	MM, MC
周波数特性	20Hz~20kHz ± 0.2dB
S/N比 (A補正、50W基準、1V入力時)	106dB
デジタル入力	
対応メディア (ストリーミング)	FLAC, WAV (LPCM)、AAC, ALAC, AIFF, DSD (最大256)、MP3, MP4, OGG, WMA
対応ビットレート (ストリーミング)	16, 24, 32 bit
最大サンプルレート (ストリーミング)	384kHz
ギャップレス再生:	○
入力端子	HDMI eARC × 1, Coaxial (RCA) × 2, Optical (Toslink) × 2
対応ビットレート (デジタル入力)	16, 24 bit
最大サンプルレート (デジタル入力)	192kHz
周波数特性 (フィルター 1)	20Hz~20kHz ± 0.2dB
S/N比 (A補正、50W基準、0dBFS)	110dB
ワイヤレス仕様	
Bluetoothプロファイル	5.4; A2DP シンク/ソース、AVRCP、BLE、Snapdragonサウンド、AAC、LEオーディオ、Auracast
Bluetoothトランスミッター周波数帯域&出力	2,400 MHz ~ 2,483.5 MHz: <20dBm
Wi-Fiネットワーク	IEEE 802.11 a/b/g/n/ac/ax (2.4GHz/5GHz)
2.4G Wi-Fiトランスミッター周波数帯域&出力	2400~2483.5 MHz (米国11チャンネル、ヨーロッパおよびその他13チャンネル) <20dBm
5G Wi-Fiトランスミッター周波数帯域&出力	5150~5250 MHz<23dBm 5250~5350 MHz<20dBm 5470~5725 MHz<20dBm (中国は対象外) 5725~5850 MHz<14dBm for EU, <33dBm for other regions.
全般	
電源	100V, 50-60Hz
最大消費電力	SA45 : 1000W, SA35 / 700W
ネットワークスタンバイ時の消費電力	2W未満
スタンバイ時の消費電力	0.5W未満
寸法 (突起部を含む) (W x D x H)	SA45 : 432mm x 390mm x 140mm SA35 : 432 x 344 x 99mm
本体重量	SA45 : 17kg SA35 : 12kg
梱包重量	SA45 : 20kg SA35 : 14kg
付属品	電源ケーブル×1 リモコン×1 リモコン用単四電池×2 測定用マイクロフォン×1 5m USBケーブル×1 クイックスタートガイド×1 安全シート×1



Apple®、AirPlay®、AirPlayロゴ™はApple Inc.の商標です。
米国およびその他の国で登録されています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
ARCAM SA35/SA45でAirPlayを使用するには、最新バージョンのiOS、iPadOS、またはmacOSを推奨します。



Google CastおよびYouTube Musicは、Google LLCの商標です。



Spotifyソフトウェアは、以下に記載されているサードパーティのライセンスの対象となります：
<https://www.spotify.com/connect/third-party-licenses>



Tidalのワードマークとロゴは、Tidal Music ASが所有する登録商標です。



Qobuzは、Xandrie SAの商標です。



Roon Readyとは、ARCAM がRoonストリーミングテクノロジーにより、優れたユーザーインターフェイス、簡単なセットアップ、日常的な信頼性、妥協のない最高レベルのオーディオパフォーマンスを実現することを意味します。



Wi-Fi CERTIFIED™ロゴは、Wi-Fi Alliance®の登録商標です。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。ハーマン・インターナショナル・インダストリーズはライセンスに基づきこれを使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者のものです。



HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMI Trade DressおよびHDMI ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

www.arcam.co.uk

ARCAMは、米国および諸外国で登録済のHARMAN International Industries, Incorporatedの商標です。

© 2025 HARMAN International Industries, Incorporated. 無断複写・転載を禁じます。

機能、仕様、外観は予告なく変更されることがあります。



ハーマンインターナショナルインダストリーズ
(HARMAN International Industries, Incorporated)
8500 Balboa Boulevard, Northridge, CA 91329 USA